

読書のすすめ

テーマ
「クローズドサークル」
(閉ざされた場所)

孤島、山荘、客船、列車など、事件の舞台は外部との連絡が閉ざされた場所。往年の名作から現代にいたるまで、多くのミステリファンから愛されているテーマです。年末年始の読書は「謎解き」などいかがでしょう。

『そして誰もいなくなった』 アガサ・クリスティ(早川書房)

10人の男女が、U・N・オーエンを名乗る人物からインディアン島へ招待される。しかし招待主は現れず、代わりに不気味な声が彼らの罪状を読み上げ…。ミステリの女王の最高傑作を一読あれ。



『ジェリーフィッシュは凍らない』市川憂人(東京創元社)

小型飛行船「ジェリーフィッシュ」の航行試験中、艇内からメンバーの遺体が発見された。閉鎖空間の中で次々と犠牲者が…。精緻に描かれた本格ミステリをどうぞ。



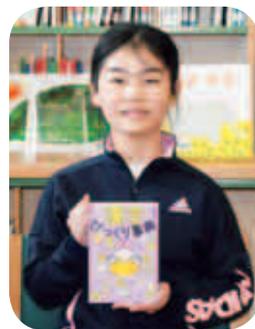
『硝子の塔の殺人』 知念実希人(実業之日本社)

雪深い森の奥にあるガラス製の尖塔に招かれたのは癖のある人物ばかり。閉ざされた空間で密室殺人事件が起き…?! ミステリファンにはたまらない一冊です。



とっておきの一冊を紹介します

漢字びっくり辞典
文：こざき ゆう 訳：金田一 秀穂
(飛プラ社)



とき読書っこクラブ
下石小学校5年
大江 十々子さん

私がおすすめする本は「漢字びっくり辞典」という本です。この本を監修しているのは国語辞典などを作っている日本語研究の第一人者、金田一秀穂さんです。この本は、どうして日本語に漢字があるのか、漢字の成り立ち、漢字のパーツの意味などをかわいいういらすとややダジャレと一緒に紹介しています。私が一番びっくりしたのは、幽霊文字という、読みも由来もわからない12個の漢字があるということ。それらが見つかったきっかけは、名前や地名など普通に使われる漢字をコンピューターに使うため、1970年代に4つの漢字表に載っている漢字を集めたことだそうです。これらの字はその後20年以上にわたって調査され、ほとんどは書き写しミスなどでできた漢字だと分かったそうですが、今も由来が不明な幽霊文字が12文字あるというのがとても面白いと思いました。他にも友達に教えたいような漢字の雑学がたくさん書いてあるので、家族や友達とぜひ読んでみてください。



土岐市図書館 ☎55-1253

1月の休館日

1日(水)～4日(土)、6日・20日・27日の月曜日、24日(金)
※変更があった場合は、図書館HPやX(旧Twitter)でお知らせします。

開館時間
▶火～金曜日 10:00～19:00
▶土・日曜日、祝日 10:00～17:00

図書館からのお知らせ

「借りる本の福袋」を開催します

令和7年1月5日(日)から、「借りる本の福袋」を開催します。どんな本が入っているかはお楽しみ！おひとり1袋まで。借りる際はカウンターにお越しください。